

講義名	対)教養総合（世界の中の日本）			
担当教員	藤原 喜美子			
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 2時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

主題と概要 この授業の目的は、世界の中における日本の特質を捉えるために、様々な視野で検討することにある。今、世界はめまぐるしく動き、地球規模で展開している。そこで、この授業では、特に日本が位置するアジア地域に注目し、アジアの国の特色を取り上げながら、日本との関連性を紹介する。また、新聞記事を紹介しながら、今の日本に起きている事柄や日本の特性を検討していきたい。一方、授業のテーマについて、受講生が会話をし、意見交換をする機会を設けることで、日本に関わる様々な考え方を共有する時間を設けたい。
--

到達目標 学生が、授業で学んだ国の特性(歴史、文化など)を理解した上で、日本がどのような国であるのか、自分の言葉で表現できるようにする。 また、受講生が互いに会話をを行うことで、「話す力」や「聞く力」を養う練習をし、テーマに対する理解を各自で深めることができるようになる。 オンデマンドでの受講では、到達目標を達成することが難しい科目であるため、オンデマンドでの開講はできない。ただし、万が一、新型コロナウイルス感染症の感染者、または、濃厚接触者に指定され、一時的に通学できない期間の講義を補充する場合は、その期間の授業の配付資料や課題について、個別にメール連絡等での対応を行う。
--

提出課題 授業の各回のテーマについて、学んだことや感想・考えを毎回、授業内にレポートとして提出してもらう。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック 授業内容に関する感想文は、提出後に授業などで、日本の地域性を考えるための一つの事例として紹介する。

評価の基準 平常点（毎回の授業内に記入してもらう課題のレポート15回分、100点）により評価する。

履修にあたっての注意・助言他 予習として各自が調べた内容や大事だと思っ箇所はメモをとること。教室内での私語など、受講態度が好ましくない者には退室を求めることがある。
--

教科書 ・ 使用しない。					

プリント資料及び参考文献 <プリント資料> 各時間、プリント資料を配布する。 プリント資料は無くさないように保存すること。 <参考文献> 講義中に適宜紹介する。
--

授業計画 「対面を原則とする科目」である。なお、新型コロナウイルス感染症の状況により、シラバスの修正をすることがある。授業の進め方の詳細は、前期の第1回目の授業で説明する。
回 授業計画 1 世界の中の日本とは 2 アジアの中の日本 「フータン」 3 アジアの中の日本 「インド」 4 アジアの中の日本 「タイ」 5 アジアの中の日本 「日本」日本の国立公園：伊勢志摩 6 アジアの中の日本 「日本」世界文化遺産：富士山 7 アジアの中の日本 「日本」世界文化遺産：石見银山遺跡 8 アジアの中の日本 「日本」有形文化遺産：和食 9 アジアの中の日本 「日本」無形文化遺産：和紙 10 アジアの中の日本 「日本」日本遺産を知る 11 アジアの中の日本 「日本」日本遺産：京都の宇治茶 12 アジアの中の日本 「日本」日本遺産：鳥獣匠の技 13 アジアの中の日本 「日本」日本の伝統的工芸品：博打刃物 14 アジアの中の日本 「日本」オリンピック・パラリンピック 15 アジアの中の日本 「日本」まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）	
ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間 予習 次回の授業範囲の準備学修として、シラバスの授業計画に記してある授業のテーマを確認し、そのテーマについて興味のある事柄を1つ調べる。また、各回の講義の最後に、翌週の講義のキーワードを紹介するので、翌週までにキーワードなどの言葉の意味を調べておく（約2時間）。 復習 講義終了時、その日の講義内容を確認しながら、内容に関わる感想文を課題用紙に記入する。また、各自で、その日の講義の要点（キーワードやポイント）等を確認する（約2時間）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 教養科目は、各学部学科の専門分野とは領域の異なる多様な科目を配置することで、広く、ときに深い教養を身につけて総合的な判断力や応用力を養うための科目群である。この科目では、授業で学んだ国の特性(歴史、文化など)を理解した上で、日本がどのような国であるのか、自分の言葉で表現できる力を身につける。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述 この授業は、プリントを用いて進める。また、受講生が会話をを行う機会を設けることがある。毎回、受講生が各自で自らの考えを整理し、まとめた考えを用紙に記入する時間を設ける。

実務経験の有無及び活用 実務経験あり。授業担当者は民俗学（生活文化史）に関わる現地調査や文化財保護業務の実務経験を有しており、その実務経験を活用し、地域の特性を紹介しながら授業を行う。
--

備考 「対面を原則とする科目」である。新型コロナウイルス感染症の状況により、シラバスの修正をすることがある。詳細は、前期の第1回目の授業で説明する。 日本について、まずは各自の身近な事柄から関心を持ってもらいたい。そして、「各自が考える日本の魅力」を探す機会にってもらいたいと思う。
--